

子どもの可能性にかける

平成 30 年 10 月 15 日

弁護士 野 口 善 國

第 1 非行問題

1 はじめに

(1) 歌を忘れたカナリヤの歌詞は「非行少年」と呼ばれる子どもたちの気持ちを表している。

数々の重大事件の少年たちは「**愛された感じを持たなかった子どもたち**」ではなかろうか。

(2) 子どもを愛するとは？

「自分で」と「見てて」

(3) 子どもの目はごまかせない

ある養護施設での体験—小学校 3 年生の孤児の発言

私が他の子と遊んでいるのを見て、

「先生、人を喜ばせるのって楽しい？」

という。

(4) 子どもの成長する力はすばらしい

・ I 君のすばらしい変化

花輪次郎先生の慈徳学園での体験

石みがき—利益を得るためではなく心をみがく

※参考文献「意思を磨く」

万引き常習の吃音のひどかった高校生が 3 ヶ月でそれらを克服した。

・ 無農薬でリンゴを育てる木村さん

(5) それなのに人々は厳罰を望むのか—非行の内容はおどろおどろしく大きく報道されるが、なぜ少年がその非行を犯したかとは小さく報道されるし、少年らがどのようにして立ち直ったかはほとんど報道されない。

凶悪事件はむしろ減少

殺人でいえば検挙数は最高時の 1/8 程度

2 少年にどのように接するか

(1) 子どもの発達、立ち直りの段階に応じた援助

「低い所から始める」－（改善すべき所は山ほどあるが）留岡幸助の言葉

「よく食べ、よく眠らせ、よく働かせる」－留岡幸助の言葉

(2) まず家に行ってみる

家でその子がどんな気持ちで毎日を過ごしているか想像をしてみる。

親の暮らしぶりは

皆で一緒に食事をすると

(3) 「教育とは、今日行くこと」～あるベテラン教師の言葉～

「そばに居てくれるだけで良い」

どうしても行けない時は電話だけでもして、言いたいことを全て聞いてあげる。

子どもには今日しかないーコルチャック

(4) 一緒に心配し、考える

役に立つのは、警告<助言<協働

警告・・・「働かなきゃだめじゃないか」

助言・・・「職安に行ってみたら」

協働・・・「一緒に職安に行ってみようか」

(5) 少年も楽しみ、こちらも楽しめる遊びをする

子どもの脳は楽しい時だけ働くー石川達三の言葉

遊びも、一所懸命にすることで、少年に何か感銘を与えられる

下手でも頑張ったバッティングセンター

やったことのない太鼓のゲーム

(6) 抱っこの重要性

(7) 厳しさとは

「先生こわい」と時々言われる。殴ってもいないし、怒鳴りもしないし、ほとんど叱りもしないのに。

「こわい」と思うのは「自分の味方になってくれる人を悲しませたくない」という少年の心。信頼関係があってこそこの話。

3 親への接し方—親を責めるな

(1) 基本は少年と同じ

「だめな」親を見ると、子どもをかばいたい気持ちから親を責めたくなる。責めても親は変わらない。

親も責められて悩んでいる。

(2) 親を勇気づけ、親の力を引き出す

(3) 最悪の場合は親子分離

第2 いじめについて

1 4層構造

加害者・被害者・野次馬・無関心←集団の問題

2 こんなことで死ぬのか

孤独がこわい

理解されにくいいじめによる自殺

3 発見しにくいいじめ

4 とことん被害者を守る

第3 行き場のない子どもたち

1 アメリカの現象

2 2万円で暮らしている子

3 非行を生む虐待

4 シェルターつなご

※別紙リーフレット参照

第4 少年法「改正」

年齢引下げ問題

危機にある少年法—厳罰化の流れ

以上